

地域学習教材「新潟ばるた」を用いた
「新潟を楽しみながら学ぶ場づくり」

堀川 強

私は新潟県の各市町村の形に切り分けられた木製ピースから成る地域学習教材「新潟ばるた」を開発し小学生を対象に「新潟を楽しみながら学ぶ場づくり」を行っています。

「新潟ばるた」には①新潟県の形を組み上げる「パズル遊び」②各市町村の特産・名産を組み込んだ読み札を用いてピースを取り札と

する「カルタ遊び」③各市町村の名前を読みながらピースを積んでいく「タワー遊び（積み木遊び）」の種類の遊びを設定し、楽しみながら各市町村の名称、配置、特産等を学ぶことができそうです。

そんな「新潟ばるた」を開発したきっかけを、自己紹介を踏まえて紹介させていただきます。私は生まれも育ちも新潟で、現在は長岡造形大学に在学しています。そんな私の好きな風景は新潟のどこまでも続く田んぼの景

色なのですが、その景色に対して、私の高校時代の友人は「新潟ってなにもない」と言い都市部へ進学しそのまま就職を決めている人が多くいました。

同様に地方都市における若年世代の流出及び地域離れは深刻化し、今後の担い手不足の側面から地方都市の持続性が懸念されます。

上記問題の本質は地方都市からの流出だけでなく回帰する動機と機会の不足にあると考えます。

そこで問題解決の視点の一つとして地域愛着に着目しました。理由は私自身新潟で親しい人と楽しい時間を積み重ねることで、愛着を感じ、今後新潟で暮らしたいと考えているからです。一方で愛着を認識していない人が存在する現状を考えた時、一つの疑問が生まれます。それは愛着がある人と無い人でいつその差が生まれるのか？ということですよ。そのヒントを得るため既往研究を概観すると地域愛着形成プロセスが存在し愛着形成の基盤

としてまず地域について知ることが重要であるという考えに至りました。

以上を踏まえ、まず新潟について学ぶ共通の機会に着目すると、小学校三〜四年生の社会科の授業で「居住する地域に関する学習」が設定されていきました。しかし上記授業では、「市町村名の穴埋め問題を、回答を見ながら埋める」実態が存在し、学習の作業化により地域についての興味・関心が引き出されていないのではと考えました。そこで「地域学

習」に「楽しさ」を掛け合わせた「新潟はるた」を開発し「新潟を楽しみながら学ぶ場づくり」を、長岡市の各施設、団体の方々から協力いただき四十三回開催し、千人を超える参加者を得ました。

また参加者からのアンケートを基に「新潟はるた」と「穴埋め問題」を比較し、「実践の楽しさ」「主観的学習効果」の全項目において改善された評価を得て、地域愛着形成の萌芽の可能性を見出しました。上記の成果に

ついては教育分野の学会で発表をしています。
。 今後は長岡版の「長岡ばるた」を開発し
「かるた遊び」の読み札を長岡市民の方々と
協力し作成する過程を通じて、楽しみながら
長岡についての知識を深める時間を積み重ね
ることで長岡に対する愛着の一步目を創出し
ていきたいです。